



さえざり

会長 根津 江美子
(十日町市立上野小学校 校長)

改革Part II 夏季研修 ラストです

会長 根津江美子



令和元年がスタートしました。令和には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められています。リコーダーの世界でも、これに則って「みんなで心を寄せ合い、リコーダーという文化的な世界が生まれ育つ」という時代にしたいものです。

さて、新潟県リコーダー教育研究会は改革を掲げ、昨年度からコンテストにフェスティバル部門を設けました。今年度は、残念なことです、第46回となる夏季研修会を今年で終わりにすることにしました。今後は例会を充実させていくことで、夏季研修の代わりとしたいと考えています。夏季研修最後の年なので、盛会となるよう、会員の皆様、多くの方々にお声かけをお願いします。

現在、人口減少、少子高齢化が問題となっています。当会も一時期に比べ、会員数の減少と役員の高齢化が進み、例外ではなくなっています。しかし、その中で、「リコーダーを愛する心情に支えられてこれまでやってきた活動の灯を消したくない」これが、多くの方々の思いです。可能な活動を地道に行いながら、「リコーダー大好き」という子どもたち、一般の大人の方々がたくさんになるよう、会として頑張っていきたいと考えます。

ここで、悲しいお知らせをしなければなりません。当会に多大なるご尽力をいただきました小池純夫先生が、4月30日にご逝去されました。先生の当会における活躍の数々、今でも鮮明に思い出されます。本当に惜しい方をなくしたという思いでいっぱいです。ご冥福をお祈りするとともに、当会の活動が続いていくことを誓いたいと思います。

今年度も、当会の活動にご理解をいただき、一連の活動が滞りなく進められますことを願っています。



令和元年度 新潟県リコーダー教育研究会 事業計画

- 理事会 4月 6日(土) アトリウム長岡
- 総会 5月12日(日) 栃尾交流センター「おりなす」

上記、総会にて、今年度の事業計画が決定しましたので、お知らせいたします。

例会

各会で講師先生から指導していただきます。(敬称略)

- ・春の総会 5月12日(日) 講師 亀貝 隆 ~ マ・メール・ロア(ラベル)を知ってリコーダーで
- ・夏の例会 6月15日(土) 講師 北村 正彦 ~ 初めてリコーダーを教える先生のために
- ・秋の例会 9月 7日(土) 講師 金子 健治 ~ 未定
- ・冬の例会 1月25日(土) 講師 太田 光子 ~ 未定

第46回 夏季リコーダー研修会

◆ 初心者の方も安心してご参加ください。

- ・期日 **8月5日(月)・6日(火)**
- ・会場 南魚沼市民会館
- ・主催 新潟県リコーダー教育研究会
- ・後援 新潟県教育委員会(申請中) 南魚沼市教育委員会
全日本リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会
- ・受講料 10,000円(会員は、8,000円) 1日のみは半額。
- ・宿泊 **なし**
※ 希望者には斡旋(六日町温泉「ホテル 坂戸城」)1泊2食 12,000円(税込)
※ 講師を囲む会有り 1日目講習会后 18時~20時
- ・講師 金子健治・北村正彦 ※ 敬称略
- ・**申込締切 7月19日(金) 亀田西小学校 上村弥**
950-0151 新潟市江南区亀田四ツ興野4-1-1
025-382-3041 , F 0250-24-2660 , E-mail / ya_san@me.com
※ 申込用紙は、県リコ HP に掲載

第45回 新潟県リコーダーコンテスト

◆ 昨年新設した、フェスティバルの部が2年目を迎える

- ・ 期日 11月30日(土)
- ・ 会場 南魚沼市民会館大ホール
- ・ 主催 新潟県リコーダー教育研究会
- ・ 共催 公益財団法人 南魚沼市文化スポーツ振興公社
- ・ 後援 新潟県教育委員会(申請中) 南魚沼市教育委員会
全日本リコーダー教育研究会 東京リコーダー教育研究会
- ・ 審査員(敬称略) … 石津忠・金子健治・北村正彦
- ・ **詳細は、コンテスト案内・申込書(県リコ HP 掲載)をご覧ください。**
 - ・ **申込締切 9月6日(金) 必着 〆切後は受け付けません。**

会報

- ・ 年3回発行。巻頭言・太田先生の原稿・会員の声を主に
- ・ **会報はホームページ上で公開。**
- ・ 県リコHP <http://music.geocities.jp/nrshomepage/>
- ・ **会員他の皆様へ … 投稿記事をお寄せください。mitu3tu@gmail.com** 宛て
日頃のリコーダー指導の悩み、リコーダー指導あれこれ。

演奏活動

- ・ 会員有志(8人)で、5月5日(日)開催された「2019新潟クラシックストリート」に合奏で参加。
新潟市音楽文化会館ホールにて、イギリス・ルネサンス合奏曲集を演奏。

その他

- ・ 今年度 役員一覧は、県リコHPをご覧ください。
- ・ **会員の皆様へお願い。** 下記のリコ研のアドレスに記名の上、メールを送信してください。
あなたのアドレスがリコ研に登録されます。今後の連絡が大変助かります。
例会に参加する場合は、このアドレスにメールすると受理されます。その他の連絡にも活用ください。

recoken_niigata@yahoo.co.jp

- ◆ **新入会員を募集いたします。** 「リコーダーが好きです。」「昔リコーダー部にいてまた吹いてみたくなりました。」「3回の実技研修会・夏季実技研修会・コンテストと楽しくリコーダー研修ができます。是非仲間に入ってみませんか。
HPの問い合わせフォームから、記名の上、入会希望としてお送りください。



第40回 全日本リコーダーコンテスト審査結果

期日:平成31年3月30日(土) 会場:東京都江戸川区総合文化センター

【小学生】

<重奏の部>

銅賞・馬場小学校 「ミュンヘンの思い出」

<合奏の部>

銀賞・堀之内小学校 「アイルランドの歌と踊り」

・東小学校 「飛鳥の里へ」

・北辰小学校 「ユーゴスラビア舞踏組曲」

【中学生】

<重奏の部>

金賞・紫雲寺中学校 「ヴァンズベーカー舞曲より1, 2, 3, 4, 7」

銀賞 ・両津中学校 「バラの香りより1, 3, 5」
・紫雲寺中学校 「レンツブルク舞曲より1, 3, 5, 7」

<五重奏以上の部>

銀賞 ・南佐渡中学校 「セヴァーン川の西」

<合奏の部>

金賞 ・紫雲寺中学校 「アフリカ組曲 第15番 1, 2, 3」

金賞 ・南佐渡中学校 「英國戀物語エマ第1幕・第2幕より」

銀賞 ・両津中学校 「イントラダ・ソング・ダンス」

【一般】

<独奏の部>

銀賞 ・庭野宏樹 「リチェルカータ 第7番」



第43回 全日本リコーダー教育研究会 全国研究大会「新潟・佐渡大会」開催報告

広報 樋熊三津男

主題 生涯にわたって音楽と楽しくかかわる姿を求めて
～ リコーダーの特性や魅力を生かした授業や活動の工夫 ～

概要

上記大会主題は、児童・生徒たちに生涯に渡ってリコーダーを楽しむ姿を求めて設定されました。2018年11月22日(木)・23日(金)の2日間にわたり新潟県佐渡市にて行われた、第43回全日本リコーダー教育研究会全国研究大会「新潟・佐渡大会」の様子を報告いたします。本大会には、全国から100名を超える方々が参加くださいました。

- ・日本各地のリコーダーサークル代表によるシンポジウム
 - ・参加者全員による合奏研究 《リコーダーオーケストラの為のラプソディ『佐渡』》(諸岡忠教作曲)
 - ・小中学校 公開授業研究(次期学習指導要領の趣旨を先取りして)
- テーマ「主体的・対話的で深い学びを実現するための指導の在り方」
-

大会スケジュール詳細

11月22日(木)

- ・ 授業公開
河原田小学校 3年生 藤井佐代子教諭「せんりつと音色」
畑野中学校 2年生 岩崎かおり教諭「曲にふさわしい表現を工夫して、友達と合わせて演奏しよう」(お年寄り施設の訪問を目指してグループでの演奏作り)
- ・ 協議会 小・中別、授業参観者5人程のグループ単位で協議
- ・ 開会式・全体講評
- ・ アトラクション及び全国交流会

11月23日(金)

- ・ シンポジウム
森吉京子氏司会、全国4グループのリコーダーサークル主宰者による
- ・ 合奏研究
《リコーダーオーケストラの為のラプソディ『佐渡』》(諸岡忠教作曲)の全員合奏
- ・ 閉会式

大会 1 日目は、佐渡市立河原田小学校を会場に行いました。最初に2つの授業を公開しました。一つは佐渡市立河原田小学校 3 年「せんりつと音色」(授業者 藤井佐代子教諭)で、曲想に合う音色を工夫し、歌に合わせて副旋律をリコーダーで演奏する授業でした。もう一つは佐渡市立畑野中学校 2 年「曲にふさわしい表現を工夫して、友達と合わせて演奏しよう」(授業者 岩崎かおり教諭)で、お年寄りにリコーダーによる日本の歌を聴いてもらうことを目指し、曲想に合うアーティキュレーションを工夫してグループで演奏を作り上げる授業でした。



グループでの協議と開会式の後、文部科学省初等中等教育局教育課程課の志民一成教科調査官から、「リコーダーの特性や魅力を踏まえつつ、聴くことを大切にすることや、課題意識、思いや意図をもって主体的に演奏を工夫していける授業展開の視点は、リコーダーの指導のみならず、器楽指導全般、それから新学習指導要領が目指している生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能力の育成という方向性に多くの示唆を与えるものである。自分の感じ方を基にしなから判断していくということが、これから求められる知識や技能の習得に大切。子供たちが自分で実際に試しながら自分の知識や技能を深めていくことは非常に意義がある。」と講評をいただきました。

夕方からは会場をRyokan 浦島に移して全国交流会を行いました。アトラクションでは地元新潟県立羽茂高等学校郷土芸能部による佐渡民謡の演舞が披露されました。その後、各地リコーダー教育研究会の近況報告をはじめ、和やかに交流が行われました。

大会 2 日目は、「あいぽーと佐渡」が会場となりました。最初に、「社会に広がるリコーダーサークル その魅力を探る」をテーマにシンポジウムが行われました。コーディネーターは『季刊リコーダー』編集長の森吉京子さん、シンポジストには太田眞美さん(北海道〈REC つべつ〉)、海老名由美さん(新潟県〈羽茂リコーダーサークル〉)、金秀賢さん(大阪府〈アンサンブル tutu〉)、高江洲博子さん(沖縄県〈アンサンブル ベニー〉)の 4 名でした。

はじめに、シンポジストがそれぞれの活動の様子を紹介しました。その後、「メンバーのモチベーションを高めるには」、「地域とのつながりをつくるには」、「子供とのつながりをつくるには」などの点から意見交換が行われました。途中フロアで参加いただいた志民教科調査官から「リコーダーで地域の音楽文化を活性化できることを子どもたちが目の当たりにすることで、子どもたちの音や音楽と豊かにかかわる資質能力は育っていく。このような取り組みをこれからも続けてほしい。」と感想をいただきました。

最後に森吉さんが、リコーダーが社会に広がる要因を、①世代を超えてグループになれる、②幅ひろい時代の作品がある、③リコーダーが全国隅々に浸透している、④楽器の質の向上と入手のし易さ、⑤グループを率いるリーダーの人間力、の 5 点にまとめました。

合奏研究では「リコーダーオーケストラの魅力を探る～オーケストレーションを中心に」をテーマに、《リコーダーオーケストラのためのラプソディ『佐渡』》(諸岡忠教作曲)を参加者全員で合奏しました。提案指揮は嶋見が務めました。そして最後に閉会式を行い、2日間の大会は盛会のうちに幕を閉じました。

参加いただいた皆様、共催いただいた佐渡市小・中学校教育研究会音楽部、後援いただいた文部科学省、新潟県教育委員会、佐渡市教育委員会、新潟県音楽教育研究会をはじめ、ご支援ご協力いただいた全ての皆様に感謝し、次回大会の盛会を祈念して、大会の報告と致します。

●大会参加者、8名の方々からの感想が寄せられました。次の通り、ご報告いたします。

初めて参加した全国研究大会

野主真裕(新潟県・見附市・葛巻小)

小学校3年生の授業。子どもたちは初めて手にしたリコーダーとこの数ヶ月、「仲よくしてきたのだなあ…」と感じる1時間でした。課題曲に合う音色で演奏するには、どこに気を付ければよいのか真剣に考え、思いを伝え合う場面があり、素敵な学びの時間を共有していると感じました。タンギングの種類・入れる息の強さ(速さ・量?)について話し合っていました。息の強さは1から5の5段階で示され、その数値を基に、考えを伝え合っていました。実際に試奏し、聴き合い評価し合う。このような学習活動を繰り返し、少しずつ評価し合う観点を増やし、学年が上がるにつれ、益々深く学び合う集団へと成長していくのだと感じました。



2日目は、各地区のリコーダーに関わる活動内容やシンポジストによる意見交換会。話を聞きながら考えました。美しいリコーダー・アンサンブルの音色を耳にしてもらえると、素晴らしい楽器であることを理解してもらえるが、そうでないと、「小学校でピーピー鳴らしたおもちゃのようなもの」で終わってしまいがち。いろいろな場面で、多くの方にリコーダーの美しい音色を耳にしてもらえる場を提供していくことが、大切だと改めて感じました。簡単に音は出せるが、その音色をコントロールする難しさと、その難しさを感じることの楽しさについて、子供たちにはもちろんのこと、様々な世代の人たちへ発信することが大切だと感じました。

最後、参加者による合奏研究、《リコーダーオーケストラの為のラプソディ『佐渡』》。嶋見先生の楽しく熱い指導を受けながら、自分自身はきちんと演奏できていないところが山ほどありましたが、皆さんと一緒に合奏でき、とても楽しく、心に残る場面となりました。

第43回 全日本リコーダー教育研究会 全国研究大会 新潟・佐渡大会より

三浦由希子(紫雲寺中)

中学授業は岩崎先生の明るい笑顔から始まりました。ウォーミングアップでは、今回グループ練習する曲をまず歌い、その後基本奏法を確認し、生徒は緊張しながらも一生懸命声を響かせ、アーティキュレーションを区別し、イメージをふくらませていたようです。

各グループ活動は音楽室ともうひとつ部屋を使用し、それぞれの音や相談する声が聞こえるよう配慮されていました。生徒からは「〇〇がうまくいかない」「〇〇してみよう」など互いにかかわる言葉がありました。授業者からのアドバイスでさらに練習が深まっていきました。しかし、運指がうまくいかないと表現の工夫にたどりつかない様子も見受けられました。各グループの発表は、練習の成果を発揮して演奏しました。演奏前には自グループの工夫の説明、演奏後は他の人からの感想発表や授業者からの評価があり、取り組んできたことが良く理解できました。



協議会で話し合われたこと

【成果】 ～ 大きな楽譜に拡大し見やすかった。生徒が自分たちの力で協議しながら深めていた。「言葉」を使って学びを深めていた。

【課題】 ～ タイミングがそろわない。4つの奏法を理解し区別できないと曲想に結びつかない。歌詞

のまとまりや音節で区切ることができていない。

【今後に向けて】 ～ ①アンブシュア・姿勢・息づかいなどの基本の指導を。／②美しい音楽に仕上げするための「技」の指導を。／③歌うようにリコーダーを演奏できるように／小中連携で系統立てたリコーダーの指導を。例えば、小学校:リコーダーの基本 → 中学校:音楽を深める／美しいものへの感動を大切に、体感させる。

歴史と文化が響きあう佐渡島

三笠 裕也(北斗市立大野中)

小学3年生「せんりつと音色」。器楽教育の原点や可能性を再確認させられる授業でした。「どのようにタンギングをすれば良いか」「どのような息遣いにすれば良いか」と子どもたちが主体的・対話的に学習を進めていくために、授業者の言葉がけが心に響く授業が展開されていました。作音楽器としてのリコーダーの可能性を感じる授業でした。



中学2年生「曲にふさわしい表現を工夫して、友達と合わせて演奏しよう」。今大会のシンポジウムテーマ、「社会に広がるリコーダーサークル その魅力を探る」にもつながるよう、リコーダーで練習した日本の曲をお年寄りに聴いてもらうという、ゴールを見据え、見通しをもった授業、そして昨今いわれている「社会に開かれた教育課程」を意識した授業でした。

アーティキュレーションの違いによる曲想の変化や面白さ、音楽の要素を考えながら作り上げていく仲間と協同の楽しさ。生徒の能力を引き出すための楽譜準備、曲のもつエネルギーと曲想を結び付ける授業者の言葉がけが、思考して問い続けたり、自分の思いや考えと結び付けたりする、深い学びへとつながっていました。容易に持ち運びでき、訪問演奏ができるリコーダーの良さ、アンサンブルの素晴らしさを体験・演奏できるリコーダーの魅力が十分伺えるものでした。

「能が暮らしの中に溶け込んでいる佐渡の歴史・文化」と「リコーダーの歴史・文化」。「能」も「リコーダー」も全盛期を迎えたのち一時衰退し、また現在見直されてきたという点において、どこことなく似ています。「能」「リコーダー」ともに盛んなこの佐渡で、研究大会が行われたのは大変意義深く感じます。だからこそ、伝統芸能もリコーダーも私たちは今後どのようにかかわっていかなければならないか再確認したいと思います。

今大会の研究主題『生涯にわたって音楽と楽しくかかわる姿を求めて』。この姿を求めるためのヒントをたくさん示して頂いたこの研究大会に感謝し、今後ともリコーダー教育の発展に、努めていきたいと思っています。

佐渡大会を終えて

山本美保子(大会副理事長／授業研究部／両津中)

中学校授業研究部は、佐渡市中学校教育研究会音楽部の協力を得ながら、指導案検討や教材づくりに取り組みました。「歌とリコーダーをつなげて表現活動をしたい」という授業者の思いをもとに、吹いたり、歌ったり、検討したりが繰り返されるような授業になるよう、何度も検討を重ねました。研究部員が生徒役になり模擬授業も行い、教材づくりを次のように行いました。



①発表候補曲選定 ～ 養護老人施設での訪問演奏のための曲を自分たちで選曲することが「学びに向かう力」になると考え、候補曲リストを授業研究部で作成。お年寄りが好みそうな曲、生徒が聴きなじみのありそうな20曲を選曲。

②編曲 ～ 中から生徒が選んだ4曲を、研究部員が1人1曲分担し、アルト・リコーダーの2重奏に編曲。編曲では調性・音高・運指を意識。部員はそれぞれ自校生徒の実態を想像しながら編曲。部員全員で試奏し、修正。

今回の授業づくりで、多くの方々に指導・助言をいただき、勉強できたことに深く感謝いたします。個人的にはシンポジウムがとても魅力的なイベントでした。他地区の方々のリコーダーに対する熱い思いを聞き、「佐渡地区だってまだまだできるぞっ！」と。距離や海、お金を言い訳にせず、自分がリコーダーの魅力を味わっていきたく、伝えられる人になりたいなと思いました。

.....

全国研究大会 新潟・佐渡大会に参加して 佐古真一(高知県リコーダー教育研究会長)

「社会に広がるリコーダーサークル、その魅力を探る」をテーマのシンポジウムで、各地のリコーダー・アンサンブルがどのような活動報告をするのか、強く興味惹かれ、参加を決意しました。現在、高知県リコーダー教育研究会長として、教え子とその知人にリコーダーを「教え直し」しています。



現職時以来、心に引っかかり、解決できずにきた課題・疑問があります。1つは、「小学校におけるタンギング指導は必要か?」、もう1つは「小・中学校を通して慣れ親しんだリコーダーが、子どもたち一人一人の音楽性や活動の高まりに応えることが出来ていないのではないか?」、成長に従って、吹奏楽や他の楽器による演奏活動に移行するか、授業外の演奏・音楽活動に出会うことなく生活する、そしてどちらもリコーダーから離れていってしまう。

シンポジウムにおいて報告されたいろいろな活動(社会人としてリコーダー・アンサンブルの活動を継続し、自ら楽しむだけでなく、演奏活動を通して地域社会に貢献し、更には学校教育への支援活動等々)は、私の疑問・課題の2つ目に多くの示唆を与えてくれました。

帰高後、出来る事から始めています。

- ① 小中学校ごとの指導の目標を明確にし、成果を継承・発展させる
→ タンギング指導からアーティキュレーション指導へ
- ② フェスティバル、〇〇教室等、リコーダーとの「出逢い直しの場」を創出
- ③ リコーダー演奏が絶対に楽しくなる指導方法・練習方法や内容の研究

.....

印象深かったシンポジウムと合奏研究「佐渡」 葛西ゆき子(佐渡・羽茂リコーダーサークル)

北海道・沖縄・大阪・佐渡の各サークル活動を興味深く聞く中で、特に印象に残ったのは、沖縄の「指笛とリコーダーのコラボレーション」でした。祝い事やエイサーといった伝統芸能に欠かせない、沖縄県民のアイデンティティともいえる指笛をリコーダー演奏に取り入れたところが新しく、オリジナリティを感じました。



佐渡には長く親しんできた鼓童、脈々と受け継がれてきた民謡があります。太鼓や三味線が身近な楽器として定着している地域性を生かし、羽茂リコーダーサークルでも独自の音楽を作っていったら楽しいかもしれないと思いました。そうした試みがサークルへの興味・関心を高め、新たなメンバーを増やすことにもつながるかもしれません。このような可能性を考えるきっかけを与えてくれた、有意義なシンポジウムでした。普段は島内の中学生と一緒に演奏している《ラブソディ佐渡》。島外の方々を交えたセミプロ集団の和音の響きはいつも以上のびやかで美しく、担当したクライネソプラニーノの高音を気持ちよく響かせることができました。

私の母はリコーダー奏者です。母の仕事に同行して、今回初めて佐渡島に来ました。

私の学校は研究授業が多く、いつも先生方が私たちの授業を見に来ます。今回初めて他の学校の生徒さんの授業を見ました。学校によって教え方や授業のやり方が違うと思いました。授業後、グループの協議会がありました。私たちのために先生方は色々なことを考えてくださっていると感じました。

翌日のシンポジウムでは、母の発表を聞きながら、私までドキドキしました。でも、発表は無事に終わり安心しました。パワーポイントを使いながら発表していて、とても分かりやすかったです。学校でパワーポイントの勉強をしているので参考になりました。シンポジウムでは、北海道から沖縄県まで、様々なアンサンブルが色々な形で活動していて、全国でリコーダーが盛り上がっているのがすごく分かりました。

大会が終わって、父も来て一緒に佐渡旅行をしました。佐渡でしか見れないトキを、朝早くから島内にお住まいの先生の案内で、近くまで行って見たり、佐渡金山で砂金取りをしたり、たらい船に乗ったり、おいしい佐渡のご飯も食べて、良い思い出をいっぱい作って帰ってきました。

今回小学生は私一人で少し不安でしたが、全日本リコーダー教育研究会の皆様が温かく接して下さり、すごく嬉しかったです。私も将来はリコーダー奏者として上手くなって、また、この研究大会に参加したいと思います。



「佐渡ならではの」「佐渡だからこそ」の研究大会（大会2日目の合奏研究「諸岡忠教先生からの学び」） 中村毅(佐渡地区リコーダー教育研究会員／高千中)

1985年、ふるさと佐渡の音楽教師として、羽茂中学校(現南佐渡中)に赴任。ここでリコーダーと出会いました。渡部加代子先生が立ち上げてくださった羽茂中学校のリコーダーの歴史が始まり、佐渡地区リコーダー研究会発足の時代。私はコンテスト出場に向け、選曲を先生に相談しました。紹介されたのがバッハの《カンツォーナ ニ短調》。編曲は諸岡忠教先生。私と諸岡先生との初めての出会い。

私が関わった30年前の佐渡での全国大会要項に諸岡先生の寄稿があります。佐渡リコ研の今大会に繋がる大きなテーマが示されています。私たちが当然のごとく行っている「オクターヴの重ね」(レジスター効果)についての記述。私が取り組んだ諸岡先生のアレンジによるバッハの《カンツォーナ》は、パイプオルガンの響きをねらったもので、目の前の生徒たちが奏でるパイプオルガン同様の響きに打ち震えました。

佐渡で25年間、演奏し続けている1曲があります。私たちの財産・佐渡の宝、諸岡先生作曲《リコーダー合奏のためのラプディ『佐渡』》です。合奏研究としてこの曲を取り上げる2つの意義がありました。1つは、この曲を共に演奏することで、リコーダー合奏の原点とも言うべき奏法の工夫と響きの効果を体感していただく。もう1つは、演奏することで居ながらにしておいでになった皆さんが佐渡の旅情と文化を味わっていただけること。私たちが30年間取り組んできた証と成果を、ともに体感していただけたのではないのでしょうか。



※ 季刊リコーダー掲載とほぼ同様の原稿です。そちらもご覧いただくとよろしいかと思います。



コンテスト改革を終えて

副理事長 永井民子(コンテスト担当)

新潟県リコーダー教育研究会会員の努力でこれまで継続されてきた新潟県リコーダーコンテストも、本年度で43回目となりました。しかし参加団体の減少に歯止めがかからず、その役割も全国大会への一通過点と言っても過言ではない状況です。この現状に対する危機感は数年前から叫ばれており、改善策について一昨年度から検討を重ねてまいりました。そしてコンテスト本来の目的を達成させるために、昨年度ついに「フェスティバル部門」の開催に踏み切りました。



学校の多忙化が問題となっている昨今、持続可能なものにするためには、参加しやすさと運営しやすさの両方に対する配慮が必要であると考えました。そこで、これまで行ってきたコンテストの形式の中に、さりげなく入れ込む形にしました。

会員によるロコミが功を奏し、初回にもかかわらず独奏を含めて5団体、23名の参加がありました。運営面の効率を考えて、フェスティバル部門は審査の時間帯に入れるように計画しました。ところが当日になって、審査員の先生方の「演奏に対する講評をした方がよいのではないか。」というご提案を受けて、合奏の部終了後すぐに、審査員の先生方からも聴いていただく中で演奏が行われました。出演者の皆さんは初めての方もおり、たいへん緊張した雰囲気の中での発表となりましたが、演奏が終えた皆さん方の笑顔に達成感を感じ取ることができました。

コンテスト終了後のアンケートを答えてくださった方のご意見は、おおむね好評でした。しかしコンテスト終了直後の雰囲気の中での演奏だったので、雰囲気を変えるような工夫が必要ではないかというご意見もありました。次年度、改善し、参加された方に「また参加してみたい。」と言っていただけるような会にしたいものだと考えています。



会員・読者の皆様へ

2号からは、従来に戻って会員の声と太田先生の原稿を掲載していきたいと思っております。会員の声については、執筆依頼を快くお引き受けくださいますよう、宜しく願い申し上げます。400字～800字程度です。リコーダーや音楽に限らず、趣味についてなど、楽しいお話を寄せていただけますよう、お待ちしております。

会員・未会員に限らず、リコーダー指導・演奏に困っている先生(授業・部活)・サークル・個人の方。困りごとはありませんか？研究会員には、それぞれ長けた人がいます。回答してくれる人がいます。気軽に寄せていただければ幸いです。

<例えば>

- ・ 3年生に指導を始めたが、子どもたちの意欲を持続させることが難しい。
- ・ 合奏・重奏の時に、うまくいかないこと
- ・ ユニゾンがなかなか合わない。どうしたらうまく合わせることができるのか

- ・ 和音を綺麗にハモらせるには
- ・ 日頃の練習で自分がなかなか解決できないこと
- ・ ○○曲(具体的な曲名)で「ここ」のところを上手く演奏できるようにするためのポイントは
- ・ 演奏会やコンテストの選曲に困っている

研究会は会員を募集しています。県内外関係なく、どなたも大歓迎いたします。

◆ 右のアドレスまでお寄せください。 ⇒ mitu3tu@gmail.com 樋熊



<編集担当から>

研究会や「さえざり」に関して、投稿原稿・問い合わせ・要望等ありましたら、下記までお願いします。

広報担当 / 樋熊 三津男 / ホームページ : 児玉禎明

mitu3tu@gmail.com 樋熊まで、または、県リコHPの問い合わせフォームから。

